

千葉県遺跡調査研究発表会

発表 内容

- 1)「^{おお まつ}柏市大松遺跡」(旧石器時代)
- 2)「^{みやうち い ど さく}佐倉市宮内井戸作遺跡」(縄文時代)
- 3)「^{さい ひろ}市原市西広貝塚」(縄文時代)
- 4)「^{きん れい づか}木更津市金鈴塚古墳」(古墳時代)
- 5)「^{なが つか}千葉市長塚遺跡」(古代)
- 6)「^{さかい}芝山町境貝塚」(古代)
- 7)「^{つの だ い}本埜村角田台遺跡」(古代)

参加希望の方は、当日会場へ直接お越しください。
参加費は無料です。なお、当日は出土遺物の展示や
報告書などの販売も行います。

日時

平成19年1月21日(日)
午前10時から午後3時50分まで

会場

千葉市文化センター
(千葉市中央区中央2-5-1ツインビル2号館)
●ホール(3階)●市民サロン(5階)

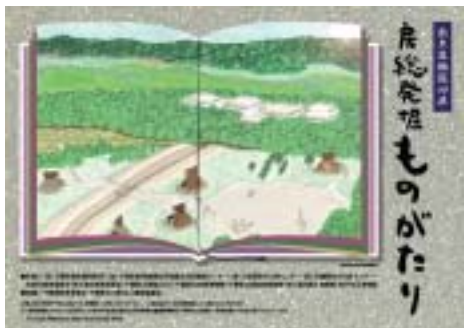
交通

JR総武本線「千葉駅」下車 徒歩10分
京成千葉線「千葉中央駅」下車 徒歩10分

出土遺物巡回展 「房総発掘ものがたり」

開催中

前号でも紹介しましたが、平成18年度出土遺物巡回展「房総発掘ものがたり」は、県内各地で発掘された未公開の考古資料が出展され、多くの考古ファンで賑わっています。現在は県立安房博物館で開催中(～11月19日)ですが、今後は次の3会場を巡回します。どうぞご覧ください。



平成18年11月25日(土)～平成18年12月24日(日)
千葉県立関宿城博物館
〒270-0201 野田市関宿三軒家143-4 TEL 04-7196-1400
URL: <http://www.chiba-muse.or.jp/SEKIYADO>

平成19年1月5日(金)～平成19年2月12日(月)
袖ヶ浦市郷土博物館
〒299-0255 袖ヶ浦市下新田1133 TEL 0438-63-0811
URL: <http://www.sodegaura.ed.jp/sodehaku>

平成19年2月17日(土)～平成19年3月25日(日)
松戸市立博物館
〒270-2252 松戸市千駄堀671 TEL 047-384-8181
URL: http://www2.city.matsudo.chiba.jp/m_muse

【ふさの国の文化財総覧】

第2巻・第3巻を好評販売中!!

- 第2巻(香取・海匝・印旛)
A4判、287ページ、オールカラー
定価1,500円
- 第3巻(東葛・京葉・君津・山武)
A4判、273ページ、オールカラー
定価1,500円

県内の国・県指定文化財を
解説した手引き書!
所在地を訪れる際に便利な
交通案内地図つき



埋文 レポート

真夏の体験学習



県立中央博物館大利根分館での
「勾玉づくり」

今年の夏も「勾玉づくり」や「縄文アクセサリーづくり(鹿角)」などを各地で開催し、たくさんの家族づれや小学生のグループが真夏の体験に汗を流しました。これからもこのような会をどんどん開催していきますので、皆様ふるって御参加ください。

房総の

文化財

VOL. 40



ISSN 0919-0848
Boso no bunkazai

平成18年10月26日 財団法人 千葉県教育振興財団
〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2
TEL 043-422-8811(代) FAX 043-422-8850
<http://www.echiba.org>
(ホームページアドレスが変わりました)

CONTENTS

遺跡今昔物語「松崎遺跡群」

発掘調査速報「国府関遺跡」

埋文・アラカルト 千葉県遺跡調査研究発表会

遺跡今昔物語

中世の武士の館と墓地 ＝松崎Ⅲ遺跡＝

松崎遺跡群は、印旛沼の北西部・千葉ニュータウンの南側の台地上、印西市に所在し、松崎地区内陸工業団地造成に伴い平成5年度～17年度に発掘調査を行いました。調査面積は約23haもあり、～遺跡に地区割りされています。



館跡全景(西から)

遺物は、13世紀～14世紀を中心とした、中国製白磁皿・青磁碗(写真手前)や愛知県産の山茶碗(無釉陶器、写真手前右端)、常滑焼のこね鉢・甕(写真後方)その他、中国銭や砥石も多く出土しました。戦国時代の城跡からよく出土する瀬戸焼の皿やすり鉢、中国製染付(白地に青色文様の磁器)の碗・皿、素焼きの皿などはほとんどありませんでした。



墓域の調査風景

遺跡群からは、旧石器時代、縄文時代早期、弥生時代後期～古墳時代前期、奈良・平安時代のむらの跡のほか、中世(鎌倉～戦国時代)の館跡や墓域が発見されました。

今回紹介する松崎Ⅲ遺跡で発見された館跡は、谷の奥にとび出た台地上に、土塁(土手)とその内外の溝で1辺55mほどの方形に囲む様に造られています。土塁の高さは1m前後、溝の深さは70cm前後と小規模です。内部も土塁と溝で区画され、掘立柱建物跡の柱穴や土坑(半地下式の建物跡や貯蔵用の穴など)が密集していました。



館跡出土の中世陶磁器

館跡は当時の古文書や伝承ありませんが、谷の奥に位置し、守りのための土塁や溝が小規模なこと、また、同じ時期の墓域も含めた出土遺物などから、戦国時代より昔に松崎地域を開発した武士の本拠地と考えられ、県内では数少ない貴重な調査例です。



短剣の鞘が出土

- 茂原市国府関遺跡 -

国府関遺跡は、茂原市内を流れる豊田川の支流に沿って営まれた田んぼの下にある遺跡です。平成18年4月に行われた調査で鞘が出土しました。鞘とは、剣や刀を入れておく筒です。昔の川跡から出土しており、いっしょに見つかった土器から古墳時代前期(1,700年前)のものと考えられます。鞘のつくりは一本の木の棒を縦に割いて中を削り、もう一度合わせてその回りに細く裂いた木の皮2・3本を1組にして等間隔に巻き、最後に赤漆を塗って仕上げています。長さは28cmあります。作られた当時の赤漆の色が褪せることなく今まで保存されていたことは大変な驚きです。古墳時代前期の剣には鉄製短剣がありますが、鞘の口の部分から中を見ると木片が見えるので、中身は木剣がだったようです。当時はもっと鮮やかな赤色だったと考えられ、儀式用の木剣であった可能性が高いと思われます。剣は、権力の強さをあらわす道具であったことから、この地域のなかでも重要な地位にいた人物の持ち物だったことが想像されます。



表紙の説明

松崎 遺跡出土の中世陶器

左側は瀬戸焼の灰釉四耳壺(高さ23.5cm)、右側は常滑焼の壺です。いずれも13世紀(鎌倉時代)に今の愛知県でつくられた陶器で、火葬された人骨片が納められていました。四耳壺は当時的高级陶器です。背景は北上空から印旛沼方向を望む印西市松崎遺跡で、左手前が当時の武士の館跡です。その左側の小谷を挟んだ斜面に造られた平場からはこれらの陶器と共に多くの穴が見つかり、館主の一族の墓域と考えられます。

